



ながしの 長篠の戦いは、なぜ起こったの



たけだかつより とくがわいえやす なが
武田勝頼が、徳川家康を攻める手始めとして、長
 しのじょう こうげき
篠城を攻撃したために起こったんだよ。

長篠城（愛知県 ほうらいちよう 鳳来町）は、2本の川が合流して とよがわ 豊川となる、Y字形の地形の所にあります。この城は、しなの 信濃（長野県）と東海道を結ぶ重要な位置にあるため、いまがわよしもと 今川義元の死後は しんげん 武田信玄がうばい、信玄の死後は徳川家康がうばいました。

勝頼が京都に行くには、まず家康をたおすことが必要だった

1573年、京都へ進軍していた武田信玄が、とちゅうで病死しました。後をついだ勝頼は、1574年に、徳川領の とおとうみ 遠江（静岡県）の たかてんじんじよう 高天神城を攻め落としました。この城は、父信玄が、何度攻めても落ちなかった城でしたから、30歳の勝頼は、すっかり自信をつけてしまい、父の志をついで京都に行こう、と考えたようです。勝頼が京都に行くには、まず家康をたおすことが必要でした。

長篠城が落ちないうちに、のぶなが 信長・家康軍がかけつけた

1575年、勝頼は大軍を率いて、みかわ 三河（愛知県）に入りました。家康がいる はま 浜松城を攻めるには、てんりゅうがわ 天竜川をわたらなければならないので、手始めに長篠城を攻めました。しかし、城主の おくだいらのぶまさ 奥平信昌と500人の部下が、ねばり強く戦ったので、なかなか城が落ちないうちに、あだのぶなが 織田信長と家康の連合軍がかけつけたのです。

信長にとっては、自分の戦いでもあった

おわり 尾張（愛知県）を出発点に、領土を広げていった信長にとって、武田氏は、常に けいかい 警戒していなければならない、こわい相手でした。ですから、家康から きゅうえん 救援を頼まれた信長は、自分が天下を支配できるかどうかの、重要な戦いであると考えて、てっぽうたい 鉄砲隊をふくむ大軍を率いてかけつけたうえ、自分で戦いの しき 指揮をしたのです。その結果、武田軍は敗れ、武田氏のおとろえが始まりました。